

令和5年度

委員会だより

NO. 2

組織・連携委員会編 北海道PTA連合会

組織の在り方、他団体や地域との連携、親が学びを深める研修活動等に関することについて年3回の会議を持って調査研究活動を進めています。

【研究テーマ】

『ともに学び、行動し、連携するPTA活動や組織の在り方』

【研究の視点】

- 持続可能なPTA活動・組織
- ポストコロナ時代のPTA活動

【今年度の研究】

- ① これまでの成果と課題を踏まえ、コロナ禍での挑戦・体験・学びを止めないPTA活動の推進等の取組を生かし、ポストコロナで進化するPTAの姿についてさらに究明していく。
- ② 現研究テーマ・視点・具体的な取組について継続研究とし深化を図る。
- ③ 令和5年度札幌大会での提言について協議を継続し、サポートしていく。

◇令和5年10月14日（土）に、第2回委員会（組織・連携委員会）が開催されました。その主な内容をお知らせします。

1. 令和8年度3プロ大会提言PTAの推薦について

- 今まではコロナ中でもやっていることがないか探していた。今後はコロナではなく、「今できること」「新たなリスタート」など今の時代にあったものを探していく。今困っていることなどアンケート調査などをしてそれに向けてがんばっている学校をピックアップできればと考えている。また、各学校の特色にあった好事例を探せればと考えている。
- 学校規模が小さくなってきており、町で小中学校各1校というところも増えてきている。統廃合でどのようにPTA変更しているかの例などもよいのではないか。
- 義務教育学校としてのメリットもあるが、通学等の問題もある。費用面、広域性の問題。市町村教委・学校・PTAの連携が大切。部活動の地域移行が進んできているが、部活動を少しでも残して行ってほしい。拠点校方式を小樽でも行っているが、移動にかかる費用の問題等があり、今後各地域での実態交流ができればいいと考える。それをピックアップして推薦していくことも考えられる。
- 今回の札幌大会で提言する小樽高島小のように、PTAが企画し児童参加での登山、ゴミひろいボランティアなどを行っている実践例もある。

2. 次回委員会に向けて

- アンケート内容を考えてきてほしい。（素案づくり）12月2日前に道Pに送付し、次回委員会で検討する。来年度アンケートを配布・集約していく。

- 参加したいと思わせるPTA活動をつくりあげることが大切である。強制的に参加させるものではなく、興味をもってもらえる実践例を集めていきたい。全小中学校対象としたいが、それは各市町村連PTAの判断となる。
- アンケートでは、PTAの存続などについての設問は設定しない。
- フォームでやると手間がはぶける。
- 困ることの大半は市で解決できることが多い。(苫小牧)
- 提言は取組をアピールできる場として考えてもらう。
- アンケートの実施はよいと思う。
- 部活動の合同が進んでいる地域があり、送迎など保護者負担で実施している場合もある。スピードスケート(冬)にはほぼ全員が入っている。→スケートリンクができないときは帯広まで送迎している。温暖化でスケートリンクができなくなってきている。
- PTAと地域の住み分けが明確になってきて、お互いに手を出しにくくなっている。
- 旭川市内6つのブロックに分かれていて、先日端末の活用の仕方やCSの件についての研修があった。地域参加の垣根を取り除くところから始める。美瑛は統廃合で小中1校ずつであり、旭川市内でも統廃合が進んでいる。11月5日の研究大会で地域連携について提言を出して、令和8年の大会の提言を目指してみたい。いじめ問題には、報道陣が殺到するなど、子どもたちを守り、近隣の住民に迷惑をかけないために、PTAの協力が必要だった。そんな取組の紹介も考えてみたい。
- 学校が町内会にあったときはよかったが、複数町内会にまたがると全員が学校運営協議会や行事等に呼ばれるわけではなく、疎外感が出てきてしまう。校長・教頭が関係性を保つように動くことが大切である。学校運営協議会委員の選考も配慮が必要である。
- 自地区には少年団が多くある。サッカー少年団では他の市町村からも集まってくることもあり、送り迎えが必要である。部活がほとんどなくなってきているので、親や自治体の協力が大切である。
- 部活での絆づくりは大切である。町に小1校、中1校の規模で、サッカーの指導者は隣の町の学校にいて、保護者の送迎が必要だったりする。CSの会議で、ダンスができる先生を要望した。早来学園をつくる際には、CSの会議に子どもたちも参加させていた。月形では条例上の問題でできなかった。
- 義務教育学校については、我々も勉強していかななくてはならない。部活の外部コーチの問題、指導者のとりあい。人物が適当かなども考えていかなければならない。学校の部活動はいろいろな種目を体験する場であり、その受け皿も減ってきて、かわいそうに感じる。
- 少年団と部活のバランスが大切で、学校の活動をやらないで外部クラブに行く例もある。
- 小中一貫教育の学校では、地域の人が施設を利用している例もある。

☆次回の委員会は、12月2日(土)、13:00~です。

北海道PTA連合会事務局



〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 時計台通ビル6階
 TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929
 Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp